

[畜産部門 平成 30 年度 普及する技術]

事 項 名	アルファルファの奨励品種「ウシモスキー（系統名北海 6 号）」の特性		
ね ら い	本県に適するアルファルファの品種を選定するため、生育特性及び収量性を調査した結果、平成 25 年に「ウシモスキー（系統名北海 6 号）」が既存の奨励品種と比較して耐病性、永続性及び収量性に優れることが明らかとなり、平成 29 年秋頃から種子が販売されていることから奨励品種として普及に移す。		
普 及 する 内 容	<p>1 来歴</p> <p>(1) 北農研、根釧農試及びホクレンにおいて、パーティシリウム萎ちょう病抵抗性基礎集団からの母系選抜法により育成された品種である。</p> <p>2 主な特性（標準品種「マキワカバ」との比較）</p> <p>(1) 発芽の良否：やや劣る。</p> <p>(2) 定着時草勢：同程度である。</p> <p>(3) 越冬性：優れる。</p> <p>(4) 早春の草勢：同程度である。</p> <p>(5) 倒伏の発生：やや多い。</p> <p>(6) 病害の発生：かなり少ない。</p> <p>(7) 再生草勢：優れる。</p> <p>(8) 永続性：欠株率が低いことから優れる。</p>		
期待される 効 果	粗飼料の安定生産に資する。		
普 及 上 の 注 意 事 項			
問い合わせ先 (電話番号)	畜産研究所 酪農飼料環境部 (0175-64-2791)	対 象 地 域 及び経営体	県下全域の 畜産経営体
発表文献等			

【根拠となった主要な試験結果】

表1 「ウシモスキー（北海6号）」の生育特性及び収量

(平成22～25年 青森畜産研)

形質	品種名		備考 (評点法)
	ウシモスキー	マキワカバ (標準品種)	
発芽の良否	6	7	1(極不良)～9(極良)
定着時草勢	5	5	〃
越冬性	3	2	〃
早春の草勢	5	5	〃
倒伏程度	6	5	1(無・極微)～9(甚)
病害程度	2	5	〃
草丈(1番草)	112	108	cm
草丈(2番草)	97	92	〃
草丈(3番草)	75	66	〃
再生草勢(1番後)	6	5	1(極不良)～9(極良)
再生草勢(盛夏期)	7	5	〃
再生草勢(秋の刈取後)	6	6	〃
欠株率(早春)	19	40	%
欠株率(越冬前)	13	20	〃
雑草程度	50	53	〃

(注) 1 発芽の良否及び定着時草勢は平成22年秋、早春の草勢は平成25年春の調査。

2 越冬性、草丈、再生草勢(1番後除く)、欠株率は3か年平均。

3 再生草勢(1番後)は平成25年の調査。

4 倒伏は平成23年2,3番草、平成24年1,2番草、平成25年1,2番草に発生。

5 病害は平成23年春に菌核病、平成23年秋及び平成25年夏に葉枯性病害、平成24年夏にそばかす病発生。

6 雑草程度は平成25年3番草における雑草の生草重比。

表2 利用年次別乾物収量(kg/10a)

(平成22～25年 青森畜産研)

品種	利用1年目 (平成23年)	利用2年目 (平成24年)	利用3年目 (平成25年)	3か年平均
ウシモスキー	1,376 (148)	1,213 (112)	971 (116)	1,187 (125)
マキワカバ(標)	930 (100)	1,084 (100)	840 (100)	951 (100)

(注) ()内数字は標準品種を100として指数。

耕種概要

1 試験場所 畜産研究所内圃場

2 播種期、播種量及び播種方法 平成22年9月2日、1.0kg/10a、条播

3 施肥量(10aあたり) 土壌改良資材:炭カル354kg、20%ようりん125kg

基肥: N-P₂O₅-K₂O=3-5-5 kg、牛糞堆肥4000kg

追肥: (早春) N-P₂O₅-K₂O=3-5-4 kg、(刈取りごと) P₂O₅-K₂O=5-4 kg

4 刈取期 1番草は標準品種の開花始め、再生草は生育日数40～50日で一斉刈りし、年3～4回刈取り
刈取日(3か年平均): 1番草6月22日、2番草8月2日、3番草9月19日、4番草(平成23年のみ)10月25日